

## 精神看護学実習

### I. 目的

精神障害を持つ対象及びその家族の特徴と精神症状に伴う諸問題を総合的に理解し、回復・自立に向けた援助が実践できる基礎的能力を養う。

### II. 目標

1. 精神障害を持つ対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
2. 精神障害を持つ対象との対人関係の成立に向けて取り組むことができる。
3. 精神障害を持つ対象の自立を促す援助が実施できる。
4. 精神障害を持つ対象及びその家族を支援する保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解できる。

### III. 実習時期

3年次

### IV. 実習場所

公益財団法人 慈圭会 慈圭病院

### V. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. 精神障害を持つ対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。	1) 精神障害を持つ対象の身体的・精神的・社会的状況が述べられる。  2) 精神障害を持つ対象の治療・検査について述べられる。  3) 精神障害を持つ対象の治療環境について述べられる。	精神症状、身体症状（基礎疾患の有無、合併症、薬物の作用・副作用）、現疾患の経過、生育歴、生活歴、入院歴、家族歴、対人関係能力  薬物療法、精神療法（個人精神療法・集団精神療法）、環境療法・社会療法（作業療法、精神科リハビリテーション）、SST  病棟の構造・設備、入院形態、法的根拠、鍵の取り扱い、服薬・物品・金銭の管理、通信・面会の取り扱い、危険物の取り扱い、安全対策（離院対策、自傷・他害行為への対策、災害対策）
2. 精神障害を持つ対象との対人関係の成立に向けて取り組むことができる。	1) 治療的コミュニケーション技術について述べられる。	不安・緊張をもたらさない近づき方、時間・場の共有、問いかけの方法、沈黙の意味、自己一致、共感、要約、明確化、感情表現の促し、自己開示

実習目標	行動目標	学習内容
	2) プロセスレコードを通して自己のコミュニケーションの傾向を知り、対人関係における自己の課題を対象との関わりに取り入れることができる。 3) 対象－看護者関係を形成していく過程について述べられる。	プロセスレコードの活用方法、対象と自己の思考の違い、自己洞察（感情、思考、態度）、反応の意味づけ  ペプロウ、トラベルビー、外口玉子、川野雅資の患者－看護師の発展過程の理論の活用
3. 精神障害を持つ対象の自立を促す援助が実施できる。	1) 精神障害を持つ対象の社会復帰に必要な社会資源及び法的根拠について述べられる。  2) 精神障害を持つ対象及びその家族をめぐる社会の現状や問題について述べられる。  3) 精神障害を持つ対象の精神状態をアセスメントできる。 4) 精神障害を持つ対象のセルフケア能力をアセスメントできる。  5) 対象の生活リズムを尊重し、自己決定を促す援助が実施できる。  6) 精神障害を持つ対象の精神状態とセルフケア能力に応じた援助が実施できる。	精神保健福祉法、障害者総合支援法、支援活動（生活支援、就労支援、経済的支援）、退院時指導、サポートネットワーク、地域生活支援事業、障害者手帳  家族の背景、心理状態、対象と家族の関係、家族の役割変化、経済的負担、面会状況、家族の心理・社会的問題、地域の受け入れ状況、アドボカシー  外観、会話、気分・感情、思考、知覚、認知  空気・水・食物、排泄、体温と個人衛生、活動と休息、孤独とつきあい（対人関係、発病前後での対人関係の変化）、安全を保つ能力  生活リズム、（対象の思い）、OT活動、ストレングス、エンパワメント、リカバリー  日常生活援助、自己管理に向けた援助
4. 精神障害を持つ対象及びその家族を支援する保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解できる。	1) 精神科における多職種の役割と機能が述べられる。  2) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割が述べられる。	関連する職種とそれぞれの役割・機能、OT活動・デイケア・ピアサポート（断酒会など）の必要性  多職種との連携、看護師の役割